

救える命を救うために

「適正な受診で救急医療を守ろう」

問い合わせ
地域医療室
☎ 829-1179

急な体調不良やけが見舞われたとき、救急車を呼ぶか、それとも少し様子を見るべきか、迷った経験がある人もいるのではないのでしょうか？

近年は救急搬送者数が増加し、令和7年には2万5千人を超え過去最高に達するなど、救急医療の現場はひっ迫しています。

こうした中で知っておきたいのが「選定療養費」です。これは、紹介状無しで大きな病院を受診したときにかかる費用です。7月から、救急車を利用した受診でも緊急性が認められなかった場合には、一部の病院で選定療養費が徴収されるようになります。

この特集では、選定療養費や「救急車を呼んでもいいのか」と迷ったときに役立つ目安などについて分かりやすく紹介します。

救急医療の現場は
どんな状況なんだろう？

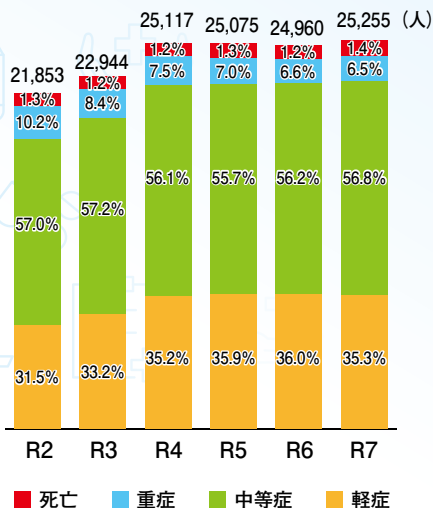


状況に応じた 適正な受診を

救急搬送者の約35%は軽症者が占めています。このように軽症者が救急車をたくさん呼んでしまうと、救急医療の現場がひっ迫し、手術や入院が必要な患者に十分な医療を提供できなくなる恐れがあります。

7月からは、救急搬送の結果、受診の緊急性が認められなかった場合には、選定療養費が徴収されるようになります。そのため、軽い風邪の症状などであれば、まずはかかりつけ医を受診するなど、適正受診にご協力ください。

症状の程度別に見た救急搬送者数



本当に必要とする人が
使えない可能性があるんだね。



選定療養費って？

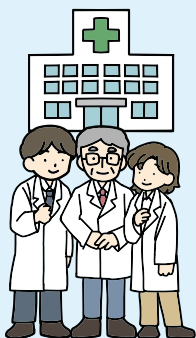
紹介状を持たずに大病院を受診する患者に対して、選定療養費を求めるところを義務化した制度です。初期の治療は地域の診療所やかかりつけ医などで、専門的な治療などは200床以上ある大きな病院で行うことで、診療所と病院の役割を分担することを目的としています。

7月から！

救急車利用でも選定療養費 徴収の対象になる病院

徴収の対象となる病院や、その費用は次の通りです。

対象	費用
長崎大学病院	7,700円(税込)
長崎原爆病院	※時間外に受診した場合は 時間外選定療養費 (5,500円)も徴収。
長崎みなと メディカルセンター	7,700円(税込)



選定療養費は
不要

かかりつけ医で
紹介状をもらって
受診



選定療養費を
徴収

紹介状をもらわず直接受診



受診の緊急性が
認められない場合には
選定療養費を徴収

救急車で直接受診



Interview

限られた時間で向き合う

救急外来は常に多くの患者でひっ迫しています。実際に私も一日に救急車25台分の搬送患者を診察したことがあります。中には数日前からの腰痛など、かかりつけ医に相談すれば解決しそうな、緊急性が認められない症状で、救急車を利用して来院するケースもありました。

高齢化が進む今、救急外来の受診は今後も増えていくとされているため、私たちもできるだけ多くの搬送患者を受け入れられるよう、体制の充実に努めています。しかし、救急医療を維持していくためには、医療機関だけでなく、皆さんの協力が欠かせません。できる限り平日の日中に受診する、休日や夜間の受診は在宅当番医や夜間急患センターを利用するなど、救急医療の適正受診にご協力ください。



長崎みなとメディカルセンター
救命救急センター長
早川先生

現場から見える 救急医療の今

私たちにできることは

日々、救急医療の最前線で対応にあたる医師と救急救命士。救急搬送者数が増え、ひっ迫が続く現場では、どのような対応が行われているのでしょうか。現場を支えるお二人に、実状や体感する課題、そして私たちにできることなどについて、話を伺いました。

Interview

通報の先にある救急現場

119番通報を行うとき、気が動転して上手く話せない方もいます。通報を受けたら、通信指令員が火事か救急か、住所や目印になる建物はなにか、現場はどんな状況かなどを順番に尋ねるので落ち着いて答えてください。救急車は、場所が確認でき次第、速やかに出場するので安心してください。

また、令和7年の救急出場件数は、市消防局管内で2万9,297件と過去最多でした。1日最大132件出場したこともあります。救急車の台数も15台と限られた体制の中で迅速に対応するために、救急車の適正利用にご協力ください。救急車を呼ぶか迷ったときは#7119を活用してください。なお、緊急時や症状に強い不安がある場合は、ためらわずに119番通報してください。



救急救命士 寺下さん

こんな症状の時は迷わず救急車を！

詳しくは
こちら▶



今回の特集を読んで、「救急車の利用は控えた方がいいのでは」と感じた方もいるかもしれません。しかし、命に関わる症状では、ためらわずに救急車を呼ぶことが大切です。ここでは、迷わず救急車を呼んでほしい症状の目安を紹介します。

	こども	大人	高齢者
頭部	頭をぶつけて出血が止まらない 唇や顔色が明らかに悪い	突然の激しい頭痛・高熱 ろれつが回らない	立ってられないほどふらつく
胸	呼吸が弱い 激しい咳などで呼吸が苦しそう	胸の中央が締め付けられるよう な、圧迫されるような痛みが2~3 分続く	急な息切れ・呼吸困難 旅行などの後に痛み始めた
お腹	激しい下痢や嘔吐	血便や黒い便が出る	激しい腹痛・吐血など
手・足	手足が硬直している	腕や足に力が入らなくなった	突然のしびれ
その他	けいれん・意識がもうろうとしている 広範囲のやけどなど	けいれんが止まらない 大量の出血を伴うけがなど	自覚症状が出にくい場合もある ため、いつもと様子が違うときは 迷わず救急車を呼びましょう。

※軽い切り傷や擦り傷、便秘、不眠などは、受診の緊急性が認められない恐れがあります。

でも自分じゃ
判断が難しい…



判断に迷ったときは

#7119 (救急安心センター) **#8000** (小児救急電話相談)

この番号に電話をかけると、医師や看護師が受診の必要性などをアドバイスしてくれます。判断に迷ったときはこの番号に電話してください。

夜間・休日に受診する場合は

夜間急患センター

夜間の急な体調不良を応急的に診療します。

在宅当番医

休日の日中は当番制で診療を行います。



詳しくはこちら

みんなの医療を守るために適正な受診を！

救急医療は限られた体制の中で成り立っています。緊急を要しない症状で救急車を利用したり時間外に受診したりすることで、重症者に医療を届けられなくなる恐れがあります。あなたの大切な人も、明日には救急医療が必要になるかもしれません。必要な人に必要な医療を提供するために適正受診にご協力ください。